

# 「お達者度」の順位が低い理由は！ 「子ども食堂」への行政の支援を！



—袋井市議会 2月定例会 高橋美博議員の一般質問—

## 市をあげて健康づくり施策を実施すべき

新潟県見附市—4万人余の地方都市、『健幸』をまちづくりの中核に据え総合的な政策を展開。「歩く」ことを基本にした「住んでいるだけで健やかに暮らせるまち」の実現に向けて、魅力ある施設の誘致による外出できる場づくり、中心市街地のにぎわいづくり、歩きたくなる快適な歩行空間の整備、コミュニティバスの充実などに取り組み、第1回コンパクトシティ大賞を受賞した。見附市の事例を参考に本市の取り組みを質した。

問 健康づくりと都市基盤整備とを関連付けることが必と考える。市は関係各課の連携が取れているのか。

答 本市は総合計画の将来都市像に「日本一健康文化都市」を掲げ、まちづくりに取り組んでいる。健康づくりとまちづくり、都市基盤整備などと一体的なものとして捉え、各事業に取り組んでいる。

問 市は「歩いて楽しいまちづくり」、「サイクルタウン推進事業」などを進めているが全体像が見えない。関係各課の連携が取れていないのではないのか。

答 歩いて楽しいまちづくりは、「歩いてみたくなる空間の整備」「ウォーキングによる健康増進」「歩くことを通じた交流」などを目的に、国交付金を活用し袋井駅南地区の「田端東遊水地公園」「田端自歩道1号線」整備、総合体育館敷地内に緑地広場やウォーキングコース整備など快適な歩行空間の環境を整えていく。こうした事業は関係各課が連携して取り組んでいる。

サイクルタウン推進事業は、「自転車利用による健康的なライフスタイルの構築」「交通安全意識の醸成」「安全で快適な自転車利用空間・走行環境の整備」などを目的に、電動アシスト自転車の貸出・購入費補助、交通安全教室の開催、モデル路線整備を進めている。モデル路線整備には、関係各課に加え、土木事務所、警察署などと共に「袋井市自転車ネットワーク協議会」を設立し、事業推進に努めている。

問 「健康マイレージ制度」「ウォーキングキャラバン」などの事業は参加者が伸び悩んでいる。対策は。

答 健康マイレージ制度は全国に先駆け平成19年度に開始、改良を加えてきた。参加者数は19年の1104人から28年には2253人に増加していて成果が現れている。今年は10周年の節目を迎え、スマートフォンを活用した新システム「#2961」を開発した。平成33年度までに5000人の参加者を目指し取り組んでいく。

ウォーキングキャラバンは14年に開始、16年目となる。現在15地区で開催している。参加者数は23年の2952人をピークに29年1447人と近年減少傾向にある。観光名所や地域の名所をコースに取り入れ地域の歴史が学べる工夫を加え地域の特色を生かした取り組みとするなどで参加者数の増加に取り組む。

## 更なる「健康寿命」延伸の取り組みを

健康寿命—健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。健康寿命更に伸ばすため必要な3要素は「運動」「食生活」「社会参加」といわれる。静岡県は「お達者度」として市町村別に算出し順位を公表、健康長寿を推進している。

問 本市は高齢化率が低く県下2番目に若いまちだが、お達者度は男性24位、女性21位と低い。理由は何か。

答 死亡率、介護認定割合が低くなるほどお達者度は長くなる。本市ではここ数年、死亡率が男性は4%台、女性は3%台、要介護認定割合も男性6%台、女性10%台と横ばいで推移。お達者度に大きな変動はない。今後はこれまで取り組んできた各年代に応じた健康づくり推進の成果で27年度から要介護認定割合が男女とも大きく減少しており「長く」なっていくと考える。

問 健康寿命を延ばすための本市の取り組みは。

答 生活習慣病予防、運動器症候群予防、認知症予防、子どもたちの健康的な成長支援など総合的な健康づくりに取り組む。交流や社会参加が生きがいづくりにつながり、健康延伸に大きな役割を果たすことから、ふれあい・いきいきサロン、ボランティア活動等への参加を促す。また高齢者の就労支援も進めていく。

## 子ども食堂は居場所、交流の場として大変重要

子ども食堂—子どもが一人でも安心して来られ、無償もしくは安価で食事ができる場所。本来は貧困家庭や孤食の子供を対象にしていたが、対象を限定しないところが増えている。食事の提供という敷居の低さもあり、全国的に広がっている。兵庫県明石市では助成制度も設け積極的に開設をすすめている。

問 市は子ども食堂の取り組みをどう捉えているか。

答 県社協の調査では10市町29カ所で開催。本市ではNPO法人助け合い遠州が袋井駅前「もう一つの家」で月2回実施、「社会福祉法人なごみかぜ」も開催予定と聞いている。非常に有用な社会活動と考える。

問 市は設置・運営に助成金交付の考えはないか。

答 多くの事例が行政からの助成なしで自立して運営しており、現時点では助成は考えていない。

問 公共施設は開設場所の候補とならないか。

答 個別に相談し、判断・対応する。

問 支援を必要とする子供たちへの周知に協力は。

答 運営主体が対象をどうするか判断にもよる。

## 水玉プールの利用開始時間を年間通し9時に

問 市内には3つも温水プールがあり、多くの市民が利用している。他市と比べ高い利用率となるのでは。

答 人口1,000人当たりの年間利用者数はB&G海洋センター、風見の丘、水玉プール合わせ約6.7人。磐田市の約1.8人、掛川市の約2.2人に比べ利用率は高い。

問 季節ごとの利用人数はどうか。

答 4月から6月まで4万9千人余、7月から9月まで6万2千人余、10月から12月まで3万4千人余、1月から3月まで3万9千人余となっている。

問 利用目的や利用頻度の把握をしているか。

答 体力向上と維持を目的とした利用が46%、週2、3回利用が42%であり、定期的利用が多い。

問 水玉プールだけ冬場の利用開始時間が10時となっているが、他施設と同様の9時に変更できないか。

答 他施設の利用実態を調査するとともに、経費の増加や費用対効果を総合的に分析し、研究する。

日本共産党袋井市議会ニュース 発行2018.3.14

高橋美博 大谷245 ☎ 48-6100  
浅田二郎 浅羽2528-1 ☎ 23-2272